

椎茸普及指導情報 第5号

【H19.4.25】

平成19年の発生量については、全般的に厳しい状況となっています。
暖冬や乾燥の影響が大きくクローズアップされています。

皆さんのほだ場を見させていただいたところでは、1才木は非常に悪いところが多く、古ほだについても悪いところもありました。

しかし、きのこ研究所が毎年とっている発生状況データ(H19.5.2 付けきのこ新聞記載)によると平成18年秋～19年4月までの発生状況は「全体では例年を下回る、1、2才木は同等、3才木以降は少ない。」という結果でした。

そこで、「平成18年秋～19年4月末までの発生量の平年比」を次に示します。

林内ほだ場	1才木	2才木	3才木	4才木	5才木	合計
低温菌	130%	145%	31%	16%	0%	91%
低中温菌	123%	131%	52%	19%	92%	87%
中温菌	120%	95%	23%	0%	99%	90%

【*下記参考データから加工したもの】

きのこ研究所のデータは発生時は自然降雨のみであり、発生時期の降雨量は東部地域とさほど変わりはありません。よって、水分を多く必要とされている古ほだは著しく悪い結果となっています。

しかし、新木については、例年以上の発生を示しました。

それでは、きのこ研究所データとの違いはどこにあったのでしょうか？

それは、**ホダ木育成時の水管理**です。

当所では、植菌後初期3ヶ月間は降雨無き場合1週間に2回、その後の3ヶ月間は1週間に1回の水管理（散水）をしています。

そこで、今回は**特に重要なホダ木育成初期（梅雨前まで）の水管理**について降水量データ（杵築市）から考えてみます。

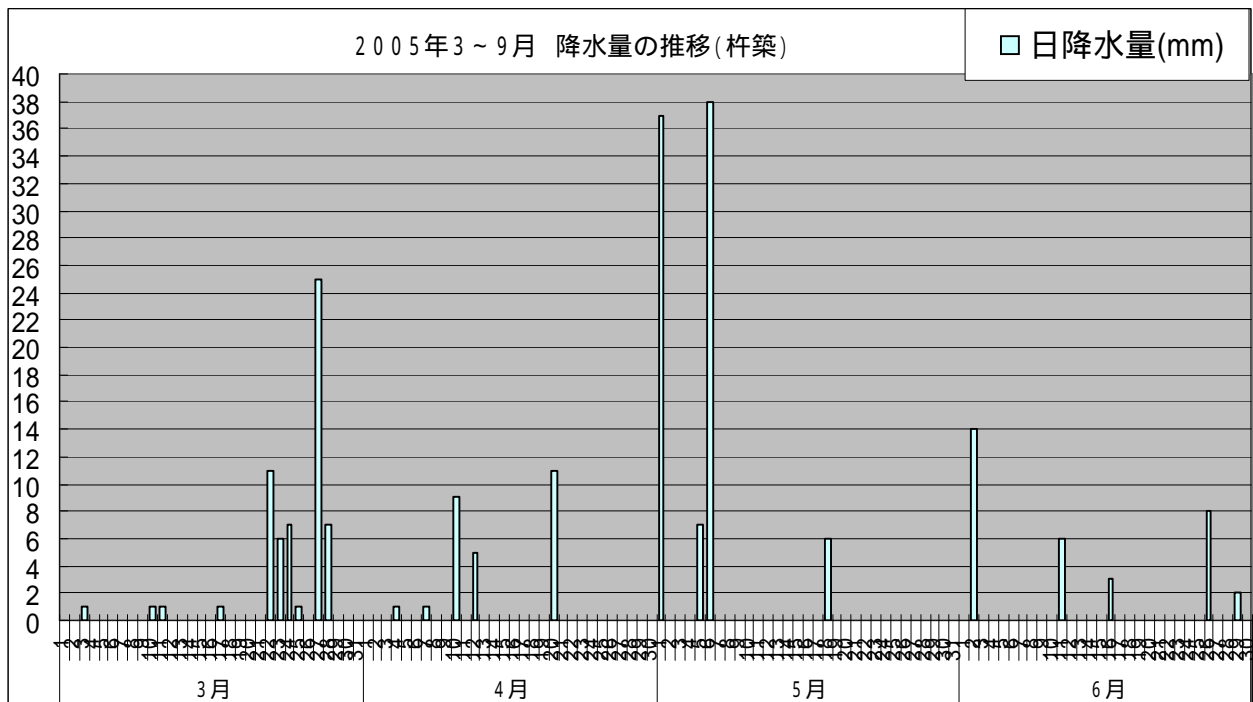
- 参考データ -

林内ほだ場			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	合計
低温菌	発生量	平年	4.4	4.7	4.1	1.7	0.6	15.5
		(kg/m3) 当年	5.8	6.8	1.3	0.3	0.0	14.1
	発生率	平年	29%	30%	26%	11%	4%	100%
		(%) 当年	41%	48%	9%	2%	0%	100%
低中温菌	発生量	平年	4.8	4.4	4.4	3.3	1.7	18.5
		(kg/m3) 当年	5.9	5.7	2.3	0.6	1.6	16.1
	発生率	平年	26%	24%	24%	18%	9%	100%
		(%) 当年	36%	36%	14%	4%	10%	100%
中温菌	発生量	平年	10.0	7.5	3.6	1.2	0.3	22.5
		(kg/m3) 当年	11.9	7.1	0.8	0.0	0.3	20.1
	発生率	平年	44%	33%	16%	5%	1%	100%
		(%) 当年	59%	35%	4%	0%	1%	100%

【*きのこ研究所データの林内データのみを抜き出し、年別に加工したもの】

1 一昨年の降水量

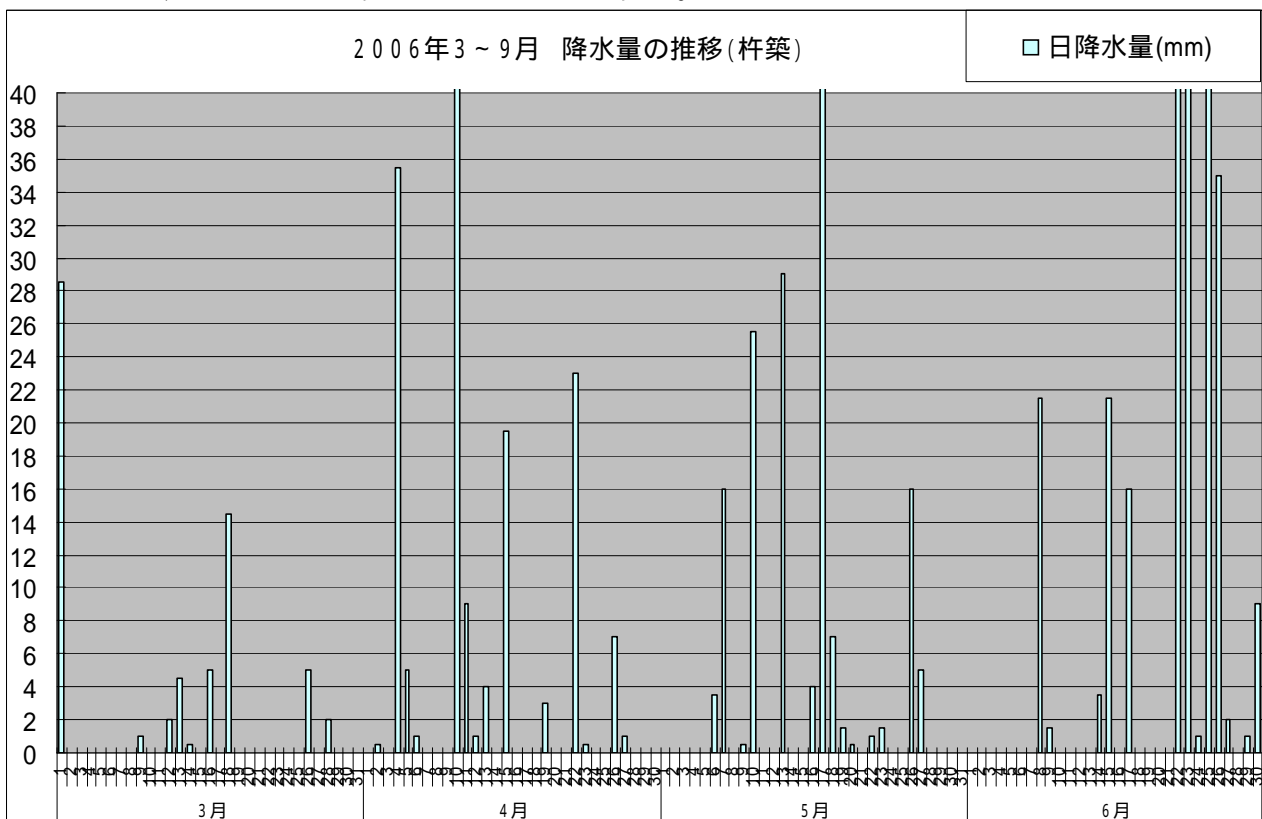
一昨年の植菌後の降水量は非常に少なかったことは皆さんの記憶に新しいと思います。
1才木の植菌直後の降水量（H17年3～6月（杵築市））データは次のとおりです。



ある程度の雨 20 mm で線を引いてみると、それ以上の降水があったのが3月1回、4月0回、5月2回、6月0回であり、いかに定期的にまとまった雨がなかったかがわかります。この年の本格的な雨が降り始めたのは7月1日以降でした。

2 昨年の降水量

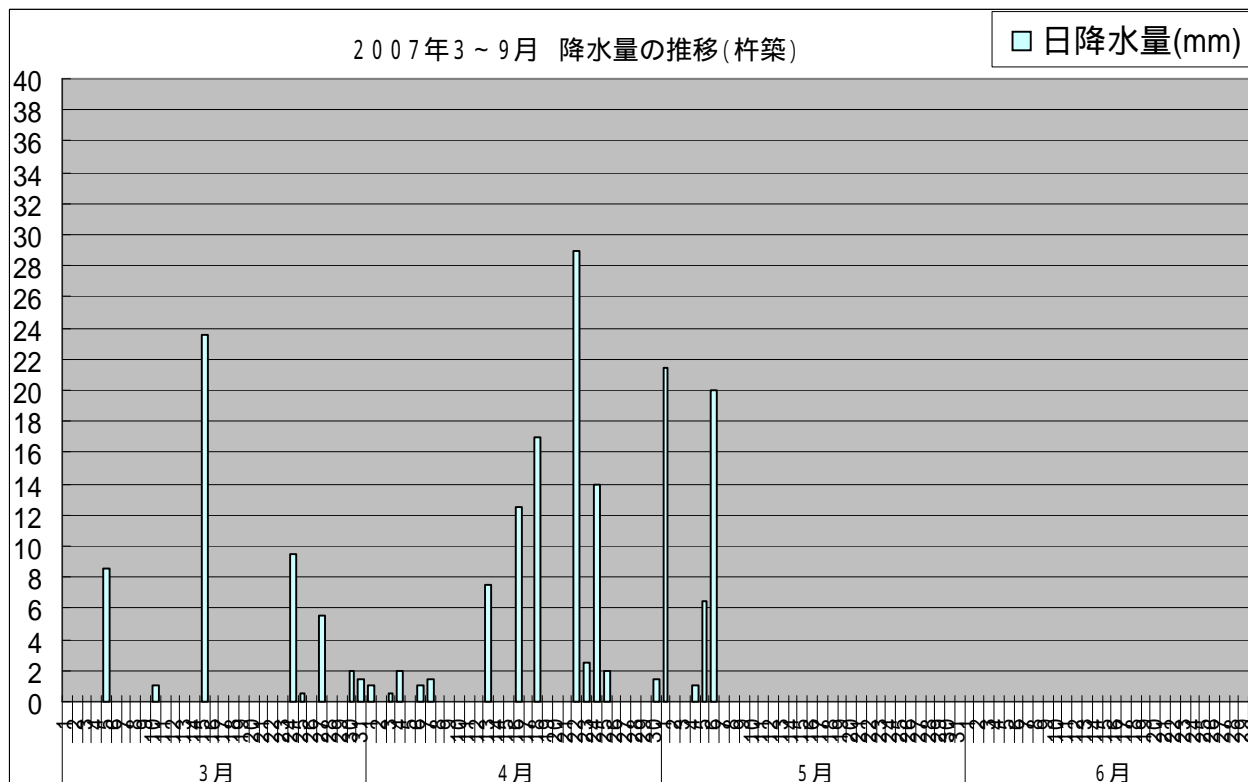
それでは、昨年度はどうであったでしょうか。



一昨年と比較すると明らかに雨が多かったことがわかります。3月は比較的少なかったのですが、4月～6月まで定期的に20 mm以上の降雨があったことがわかります。

3 今年の降水量

最後に今年度現時点（5月6日現在）はどうでしょうか。



20mmを超えたのは3月に1回、4月1回、5月に2回（現時点）です。現時点で考えるとどちらかというと一昨年に近い降水量となっています。今後、5月、6月の降水量に期待したいところです。

～今後の対応策～

梅雨までの降水が期待できないときの対応策としては、水がまければ水をまいてください（一番良いのですが、現実的には厳しいと思われます）。現実的に可能な手段としては仮伏せをしっかりと行うことだと考えられます（むらさないように注意）。

来年度以降の話になりますが、ほだ化を確実にを行うためには仮伏せをしっかりとすることはもちろんですが、

水をまけるところに原木を移動させる。

水をトラック等で運んで水をまく。

林内伏せを行う等が考えられます。現実的には労務の都合やコストの問題等により難しいところもあると思われます。

県では「水をまけるところに原木を移動し、エバーフロー等で散水するまで」の補助事業（共同）もメニューとして設けておりますので、積極的なホダ木づくりをお考えの方はご相談下さい。

～追加事項 昨年伏せ込み分について～

昨年度伏込のほだ木は走り子もかなり発生しており良好と考えられます。

夏場の高温障害を防ぐための笠木の補充、梅雨時期から夏場にかけてむらさないための下草の通風管理にも注意願います。

- 椎茸のことなら何でもご相談ください ご相談窓口 -

大分県東部振興局生産流通部
野菜・椎茸班 担当 栗林（国東市エリア）
河野（別府市・杵築市・日出町エリア）
0978-72-1141 FAX0978-72-1242